



【大量保有】 買い姿勢に転換 2019年1月



2019年1月に提出された大量保有報告書（移転などの変更を除く）の件数は782件で、前年同月（2018年1月）を86件上回った。

株式保有割合の構成比は「増加」が9.6ポイント、「新規」が1.3ポイント増えたのに対して、「減少」は10.9ポイント減少しており、前年同月の売り姿勢から、買い姿勢に転じたことがM&A Onlineの集計で分かった。

2018年は2009年以降の10年間で最も大量保有報告書の提出件数が多かった年で、2019年1月はこれを上回っており、今後の株取引の活発化を予感させる結果となった。

「買い」が全体の55%

2019年1月の大量保有報告書の提出件数782件のうち、「増加」は266件で全体の34.0%を占めた。「新規」は164件で全体の21.0%、「減少」は352件で全体の45.0%だった。この結果「買い」（55%）が、「売り」（45%）を10ポイント上回った。前年同月は「売り」が全体の55.9%を占めており、投資姿勢に変化を読み取ることができる。

前月（2018年12月）は総件数が1270件で、このうち「増加」が41.5%、「新規」が17.7%、「減少」が40.8%であったため、2019年1月は「買い」が「売り」を上回る傾向が継続した。

増加	新規	減少	合計	2018年1月
170件	137件	389件	696件	2019年1月
24.4%	19.7%	55.9%	266件	34.0%
			164件	21.0%
			352件	45.0%
			782件	

※（ ）内は構成比

2019年1月に大量保有報告書を10件以上提出した企業は12社あり、そのうち最も提出件数が多かったのが、三菱UFJフィナンシャル・グループの55件。同社の保有割合は「増加」が19件、「新規」が3件、「減少」が23件で、「売り」が「買い」を1件上回った。

2位の野村證券の保有割合は「増加」が24件、「新規」が11件、「減少」が18件。3位のJPモルガン・アセット・マネジメントは「増加」が21件、「新規」が2件、「減少」が14件となり、上位3社の合計では「買い」が「売り」を25件上回る結果となった。

保有割合の「増加」比率が最も高かったのは米国のヘルスケア製品メーカー・ジョンソン・エンド・ジョンソン（J&J）が、化粧品ブランド「ドクターシーラボ」を展開するシーズ・ホールディングスをTOBで子会社化した案件（41.13%増）。

2018年10月23日にTOBを発表し、2019年1月10日に大量保有報告書を提出した。買収金額は1180億2900万円だった。

企業名件数	1
三菱UFJフィナンシャル・グループ	55
野村証券	2
JPモルガン・アセット・マネジメント	53
みずほ銀行	3
みずほ証券	38
三井住友トラスト・アセットマネジメント	4
大和証券投資信託委託	31
ブラックロック・ジャパン	5
アセットマネジメントOne	27
三井住友信託銀行	6
三井住友アセットマネジメント	26
野村アセットマネジメント	7
	22
	8
	21
	9
	18
	10
	18
	11
	16
	12
	10

文：M&A Online編集部